同志社女子大学生活科学　*Vol*. 51，26～34（2017）

≪原著論文≫

わが国における地方動物園の現状
――いくつかの地方動物園に関する考察――

The Circumstances of Local Zoological Gardens :
Consideration about several local zoos.

古　性　摩里乃　　諸　井　克　英*
（Marino FURUSHO）（Katsuhide MOROI）

Abstract : The purpose of this study is to examine the circumstances of local zoological gardens and to throw problems into relief. Sadotomo（2015, 2016）analyzed management policies adopted by public zoos in Japan after the war, and pointed out "a paradigm shift" in the management policy, namely dependence on public funds. In the miraculously swift growth of the economy in Japan, many local public zoos fell into financial deterioration. However, by adopting various reproduction strategies, the management of many zoos regained its footing. On-site observations of several local zoos in the Kansai region were reported. The roles of local zoos were discussed.

Key words : public zoo, local zoo, management policy, a paradigm shift.

Ⅰ．わが国における地方動物園の現状

（1）公立動物園におけるパラダイム転換

佐渡友（2015）は，第Ⅱ次大戦後のわが国における公立動物園の経営分析を民営動物園と対比しながら試みた。わが国全体の経済的変化を加味して GDP に基づくマクロ経済指標を利用して経営指標の相対化をはかり，その上で公立動物園の維持収支について次の 2 点を認めた。①'57 年頃まではプラスであり，自主財源で維持管理費が賄われていた，②'67～'76 年にかけて急速にマイナスが拡大し，公的資金の導入を前提とした経営が定着した。対照的に，民営動物園の場合には次の 2 点の特徴があった。①'51～'66 年まではおおむねマイナスであり，本社による資金投入によって運営されていた，②'67 年にプラスに到達して以降，プラスかゼロ付近で推移していた。以上の結果から，佐渡友は，わが国の公立動物園経営のパラダイム転換（公的資金の投入を前提とした運営）が '60 年代半ばから '70 年代半ばにかけて起きたと結論づけた。

このパラダイム転換は，動物園の入園料の推移にも対応している。民営動物園では '60 年代後半以降上昇しているのに，公立動物園の場合には '50 年代半ば以降実質的に下降している。つまり，後者の場合，自主財源として入園料があてにされていないのである。この問題は，'51 年に制定された博物館法で定義された教育施設に動物園や水族館が含まれるかという可能性に関連する。つまり，教育施設であるならば公的資金の投入は当然となり，入園料の値上げは理念に反することになる。このことと，独立採算的な志向を前提とした動物園経営とは矛盾することになり，その解決としてパラダイム転換が生じたのである。佐渡友（2015）が指摘するように，公的資金投入の前提となる「公益性」は博物館法で定義された教育施設という概念よりもむしろ「家族連れ

同志社女子大学大学院生活科学研究科生活デザイン専攻
*同志社女子大学生活科学部

のレクリエーション」に変化していることは否めない。つまり，佐渡友が認めたパラダイム転換が公立動物園の経営にどのような意味があるのかは，今後も論じるべきであろう。

さらに，佐渡友（2016）は，動物園や水族館に従事する職員数に注目し，戦後からの年代ごとの推移を検討した。その結果，次の 2 つの特徴が浮き彫りになった。①有料の公立動物園の場合には，戦後すぐには 40 人を超えていたが ’50 年代後半には 30 人に落ち込んだものの，その後回復し ’90 年代には 40 人を超えた，②民営動物園では ’60 年代頃までには 110 人まで達したが，その後減少し 2000 年頃には 50 人を下回りその後回復し 60 人前後となっている。①については先述のパラダイム転換に対応しているが，②の傾向は民営動物園による人件費削減努力を示しているといえよう。

以上に述べたように，公立動物園経営のパラダイム転換の問題は近年公共施設の運営に適用されている指定管理者制度と関連している。この制度は，’03 年から地方自治法の改正に伴い，「地方公共団体の指定する者（指定管理者）が管理を代行する」ことが可能となった（京都市，2007）。上野動物園や野毛山動物園などが指定管理に切り替わったが，この制度の公立動物園への適用は佐渡友（2016）が指摘しているように問題がないとはいえない。たとえば，「整備を行う自治体職員」と「飼育をする指定管理者の職員」が別組織になり，「飼育基準」に適合できるかどうかという懸念を指摘できる（大阪市建設局，2016）。

わが国では，法制度上，動物園は博物館の一種であると見なされてきた（古性・諸井，2016 参照）。しかしながら，この博物館法は動物園自体を規定している法律ではなく，実際，動物園のうち博物館法による登録博物館は 2 園にすぎない（環境省動植物園等公的機能推進方策のあり方検討会，2014）。打越（2016）が指摘するように，わが国の動物園は，組織上「日本動物園水族館協会（JAZA）」によって管轄されているが，法律的に見ると元々別の目的のために定められた法律の絡み合いの中に位置づけられている。たとえば，①都市公園法（国土交通省所管，’56 年公布），②動物愛護管理法（環境省所管，’73 年公布），③鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（環境省所管，’02 年公布），④絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（環境省・経済産業省・農林水産省所管，’92 年公布）などである。このような動物園の曖昧ともいえる位置づけを明確化するために，’13 年より環境省において動物園・水族館の社会的役割や公的機能に関する検討が開始された（環境省動植物園等公的機能推進方策のあり方検討会，2014）。

（2）地方動物園における再生戦略事例

以上に見たように，佐渡友（2015）によれば，わが国の公立動物園では公的資金の投入を前提とした運営へと ’60 年代半ばから ’70 年代半ばにかけて変化した。しかし，打越（2016）が指摘するように，わが国の動物園の大半は戦後から高度成長期までの間に設立され，「単純なるレジャー施設として一般的な公共施設と同じような評価基準」すなわち「入場者数と経営にかかる費用だけで施設を評価する土壌」に埋没してしまうことになった。とりわけ中小の動物園は，「施設の老朽化や動物の高齢化」や「入園者数の減少」などに苦しむことになった（打越，2016）。以下に，このような状況下での小規模公立動物園における再生努力をいくつか列挙しよう。

打越（2016）は，上野動物園，大阪市天王寺動物園，東山動物園に次ぎ，’26 年に設立された小諸市動物園が自治体の厳しい財政状況や施設老朽化の問題に対して地域住民との連結によって再生する様子を取り上げた。シンポジウム開催（’14 年）の結果，動物園が抱える以下の 3 つの課題が浮き彫りにされた。①飼育動物の高齢化，②臨時職員・派遣職員に依存した職員待遇の厳しさ，③小諸市の予算の中で動物園事業が独立採算として位置づけられていること。このシンポジウムを契機として，園内での企画の活性化（天然記念物・川上犬との散歩，ペンギンによる「流しアジ」パフォーマンスなど），動物園が位置する小諸城址懐古園との連動，SNS による情報発信などが行われるようになった。ちなみに，この動物園では ’17 年 2 月に同園で人気のある 15 歳の雌ライオンによって女性飼育員が重傷のけがを負わせられる事故が起こり，閉園となった（産経ニュース，2017 a）。しかし，「小諸市動物園安全対策検証委員会」によって飼育員による扉を閉め忘れるという「人為ミス」との報告がなされ（産経ニュース，2017 b），5 月には動物園は再開された。

ところで，児玉（2013 a）は，「人間の協働によって，限られた経営資源をいかにして効果的に活用していくか」という経営学的観点から動物園の問題を論じた。児玉の出発点は，「低成長・少子高齢化社会に伴う財政基盤の脆弱化」が「公的組織に投入できる経営資源」の縮小化をもたらし，高度成長期のような「公共サービスの提供」が困難に陥っているという一般的現状にある。このような現状の中で，動物園の経営戦略も立てなければ

表 1　低成長・少子高齢化時代に対応した旭山動物園の経営戦略（児玉，2013 より）

戦略	旭山動物園の事例
ビジョナリー・リーダーとしての園長の役割	閉園後の会合における各施設の展示方法に関する「夢」の構想作り
従来の動物園では見られない独自なサービスの提供	「こども牧場」,「猛獣館」,「サル山」,「ペンギン館」,「オランウータン空中運動場」など
3G（Genba, Genbutu, Genjitu）主義の徹底	飼育係から飼育展示係への名称変更,「もぐもぐタイム」,「ワンポイント・ガイド」など
顧客創造と顧客関係管理の推進	HP による情報発信，飼育員ブログ，サポーター制度,「フォトコンテスト」,「絵本読み聞かせ会」,「児童動物画コンクール」,「わくわくゲーム大会」，機関誌「モユク・カムイ」の発行
外部資源の有効活用	市民ボランティア「旭山動物園読み聞かせの会」，NPO「旭山動物園くらぶ」など
パブリシティ戦略の重視	園長による後援会・シンポジウムへの出席やマスメディアへの出演，日常的なプレス・リリースなど
企業の社会的責任	「夜の動物園」,「絵本の読み聞かせ会」，水を使用しない「バイオトイレ」，動物病院など
評価と改善活動	閉園後のスタッフによる反省会,「チンパンジーの森」オープンなど絶え間ない改革

ならない。

地方財政の逼迫の中で公立動物園の運営が従来型の経営戦略の立て直しを迫られているが，児玉（2013 a）は，北海道・旭山動物園や山形県・加茂水族館による時代の変化に対応した再生戦略の事例を挙げた。従来型の経営戦略においては，動物園職員は「動物を生かす」ことに喜びを得，さらに「繁殖が成功する」ことを目標にしてきた。つまり,「入園者に喜んでもらう」という「顧客満足（customer satisfaction）」の視点は希薄になりがちであった。その結果，'80 年代から 2000 年代初頭にかけて，動物園入園者数の大幅な減少が生じた（児玉，2013 a）。このような状況に対して旭山動物園（'67 年開園）が採用した経営戦略と具体例を表 1 に示した。

他方，同様に入園者数の落ち込みに直面した鶴岡市立加茂水族館（'30 年開館）はクラゲに特化した展示戦略を採用して成功を収めた。これは，苦し紛れに展示したサンゴ水槽に発生したクラゲから始まる。クラゲ専用の水槽を独自に開発するとともに，継続展示のための自家繁殖まで行い，クラゲの展示室（「クラネタリウム」）を設置するに至った。公的資金に頼ることなく自力での獲得資源によって来園者に感動を与えることができたのである。児玉（2013 a）によれば,「クラゲ展示世界一」という館長によるビジョナリー・リーダーシップに基づき,「鶴岡市クラゲ研究所」や館内レストランでのクラゲメニューなど，新たな経営戦略の成果を示しているといえよう。

地方動物園ならではの特徴的な夏休みイベントとして周南市徳山動物園（'60 年開園）の「うんこ展」の開催（'17 年 7・8 月）を挙げることができる（周南市徳山動物園，2017 a）。この体験型イベントでは，もともと飼育されているキリンやシマウマなどの「うんこ」に関する学習が目的とされる。さらに，4 日間ではあるが「ぞうのうんこで紙をつくろう」というワークショップも開催される。実は「ぞうのうんこ」から紙を作成することは，象と人間とを共生させるビジネスモデルとしてスリランカで積極的に推進されている。野生の象と人間とのトラブルを解決するためにこのモデルが立案され,「ぞうのうんこ」が「ぞうさんペーパー」工場を通して住民に利益をもたらしているのだ（株式会社ミチコーポレーション，2017）。「うんこ展」というタイトルは奇抜な印象を与えるが，以上に述べたように動物と人間の共生の仕方に関する学習へと来園者は導かれるのである。この試みは,「ぞうさんペーパー」で作成された絵本として紹介されている（Ranasinghe, 2006）。この絵本の構成は以下の通りである。①人間がジャングルの木を伐採したことによる象の食べ物の不足，②餌を求めて人間の居住区域に出没した象と人間との争い，③繊維がかなり含まれている象の「ウンチ」を利用した紙の生産，④象と人間との共生の可能性。

ちなみにこの周南市徳山動物園は，一般的に気持ち悪いという感情を引き起こす生き物を集めた催しである「キモい展」（大阪や東京などで '17 年に開催）の製作・協力を行っている（周南市徳山動物園，2017 b）。この試みは,「キモい」という通常は回避的な行動につなが

る感情を逆に利用して，生き物の多様性への関心を深める試みといえよう。

児玉（2013 b）が指摘するように，パンダなどの希少動物を導入することによる魅力的な動物園づくりは地方公立動物園が置かれている厳しい財政状況を考えれば，かなり困難といえる。つまり，持続可能性という観点からは「動物園にしかできない役割」をそれぞれの動物園が見極めることが重要となる。つまり，動物園に個性の発揮が求められているのである。児玉によれば，東京都・羽村市動物公園（'78 年開園）の繁殖個体数の多さ，長野市茶臼山動物園（'83 年開園）における青少年のための教育関連事業（交通アクセス上の不便さを逆手に取った），「義足のキリンたいよう（'01 年－'02 年）」で 2000 年代初頭に注目された秋田市大森山動物園（'73 年に開園）における「秋田市大森山動物園条例」の制定（'06 年）に伴う総合的な改善努力などをこの個性化への対応として指摘できる。

東（2013）は，地域コミュニティの観点から次の 2 つの点で動物園の役割があるとした。①観光の軸としての動物園，②地域風土・文化保全の手段としての動物園。①については，「行きたい価値」（＝ブランド）を動物園にいかに付加するかということである。この成功例としては，旭山動物園や沖縄県・美ら海水族館などを挙げることができる。しかし，日本全国からの集客という目標が一般的に可能であるかという問題がある。つまり地域独自の方針に従って運営を図るという，地域ブランドの考え方がこれに対置される。つまり，地域体験の場として動物園が機能すれば，地域に対する誇りや愛着が生み出され，結果として地域ブランドが創造される。

②の先駆的な事例として東（2013）は，富山市ファミリーパーク（'84 年開園）の「里山再生活動」を挙げている。もともと園内に残されている里山を活用して生き物の展示を行っているのである。「里山生態園」（'11 年公開）では，ホンドザルやホンドタヌキなどの本来の生態が観察可能となっている。これは動物園内だけの活動に留まらず，地域住民との協働として里山の再利用を考える場を提供するに至っている。

Ⅱ．関西圏に位置する地方動物園に関するいくつかの観察事例

ここでは，関西圏に限定して，公立動物園である福知山市動物園と五月山動物園，および私設動物園である大内山動物園における現場観察を報告しよう。

（1）福知山市動物園

福知山市は，京都府北部の中丹に位置し，「明智光秀」が城（福知山城）を構え繁栄した城下町に由来する。第Ⅱ次大戦前までは，京阪神地区と舞鶴港を結ぶ重要な軍事都市として栄えた。このため，福知山市内には複数の鉄道路線が存在している（JR 福知山線，JR 山陰本線，京都丹後鉄道宮福線）。このような立地を活かしながら，福知山城を中心とする観光だけでなく，大規模な工業団地（長田野工業団地）も設けられている。現在の人口は 8 万人弱である（'17 年 7 月現在 79,166 人；福知山市，2017）。

福知山市動物園は，以下に述べるように個人的飼育から出発した特異な動物園である。'51 年に御霊公園に福知山信用金庫から台湾ザル 3 匹が寄付された。その台湾ザルの飼育には公園敷地内の図書館の職員があたっていた。しかし，世話が大変なため，福知山市動物園・現園長の「二本松俊邦」氏の小鳥店を営んでいた両親が餌代を受け取り，飼育を引き受けた。さらに，'56 年には白鳥，'61 年には小鳥舎の飼育も任された。福知山市によって '60 年より進められた三段池公園整備の過程で，御霊公園内にあったこの動物園は '78 年に三段池公園に移設されたが，引き続き元々動物園に勤務することが夢であった父親が運営に関わった。

'85 年には入園が有料化され（ちなみに現在は大人 210 円，4 歳～中学生 100 円），'95 年になると現園長である「二本松俊邦」氏は，父親の高齢化に伴い運営に関わるようになった。この時期の入園者数はおよそ 3 万人であった（二本松，2017，私信）。

'10 年には，ニホンザルの赤ちゃん「ミワ」とイノシシの子「ウリボウ」の「友情」が話題になった。ともに生後 1 ヵ月くらいで親と離れているところを動物園に保護された。飼育員が試しに近づけたところ「友情」が芽生えたのである。その後，「競馬のようにミワがウリボウの背中に乗り」園内を駆け回るようになった（両丹日日新聞，2010 a ; 2010 b）。ともに 3 歳を過ぎてもこのような「友情」は続いている（両丹日日新聞，2013）。この「ミワ」と「ウリボウ」の友情は福知山市動物園の入園者数の増加に多いに貢献した（「それまでの入場者数は 6 万人。このブームで半年間に 13 万人増え，19 万人になりました。」（二本松，2017，私信））。

その後，このブームは一端下火になったが，今度はテレビ番組との連携により再び入園者数の増加が生じた。日本テレビの人気番組「天才！志村どうぶつ園」（日本テレビ，2017）の中でタレントが動物の赤ちゃんを飼育

するコーナーがあり，タレントの「瀧本美織」が福知山市動物園のシロテナガザルの「桃太郎」を一定期間泊まり込んで飼育した（瀧本，2014）。この番組のおかげで「桃太郎」を見に来る人が増えた。

’17 年にはレッサーパンダの繁殖に成功した。誕生した 2 匹の雄の名前を公募し，「明智光秀」にちなんだ名前である「光（みつ）」と「秀（ひで）」が採用された（両丹日日新聞，2016；図 1-a）。

以上に述べたように，この福知山市動物園は，ある意味で家族的飼育として出発した。先述した地方公立動物園の現状と一致して，動物園施設として見ると動物園の面積はおよそ 10,700 m² であるが，決して充実した環境にあるとはいえない（図 1-b，図 1-c）。しかしながら，偶然生じた奇妙な「友情」やテレビ番組との連携，あるいは福知山市民が愛着をもてる命名など，地域の動物園として最大限の努力を行っているのである。

（2）五月山動物園

五月山動物園が位置する池田市は，大阪府の豊能地域に属している。古代から「呉服の里」と呼ばれ，平安時代後期から荘園として栄えた。南北朝時代には，池田氏によって池田城が築かれたが，戦国時代には廃城となった。この城の跡地が今では池田城址公園となっている。

池田市内では 2 つの阪急電鉄の路線が利用可能である（阪急宝塚本線，箕面線）。市内にはダイハツ工業の本社などがあり，近隣には大阪国際空港が位置している。現在の人口はおよそ 10 万人である（’17 年 7 月現在 103,348 人；池田市，2017）。

五月山動物園は，’49 年に整備が開始された五月山公園の中に ’57 年に開園した。大きさはおよそ 3,000 m² とかなり小規模であり（図 2），入園料は無料である。阪急・池田駅から坂道を徒歩およそ 15 分かけて登らなけ

図 1-b　福知山市動物園の入園口
（**2016 年 10 月 9 日**；著者撮影）

図 1-c　新設されたレッサーパンダ舎
（**2016 年 10 月 9 日**；著者撮影）

図 1-a　お披露目されたレッサーパンダの「光」と「秀」（**2016 年 10 月 9 日**；著者撮影）

図 2　五月山動物園の入り口
（**2016 年 11 月 30 日**；著者撮影）

ればならないという点で，先の福知山市動物園ほどではないが，訪れるのにやや負担がかかるといえる。しかしながら，’80 年代に人件費や飼育費の財政的問題に加えゴルフ場計画の浮上に伴い，この動物園の閉鎖が論議された。興味深いことに，結局は，市民の後押しによって園は存続されることになった（川田，2007）。

この動物園は，先述したように訪れるのに負担がかかるが，五月山公園内に立地していることを活かして公園内での桜や紅葉見物など，また近隣にある五月山体育館，都市緑化植物園，児童文化センター，あるいは池田城跡公園などと一体化した集客戦略を取っているといえる。また，古性・諸井・天野（2017）で述べたように，Launceston 市（Australia）と池田市との「姉妹都市」提携に伴って寄贈されたウォンバットを動物園の「目玉動物」としてインターネットなどを含め情報発信している。

(3) 大内山動物園

’17 年 8 月 1 日に渋川動物公園（岡山県・玉野市）で飼育されているアルダブラゾウガメの「アブー（体長 1 メートル）」が行方不明になったと報じられ，話題となった（朝日新聞 DIGITAL, 2017）。懸賞金 50 万円がかけられたが，およそ 2 週後の 16 日に園から 150 メートルくらい離れた山中で無事発見された（産経ニュース，2017 c）。この渋川動物公園はおよそ 10 万 m^2 の敷地を有するが，公立の施設ではなく，「宮本純男」氏によって ’89 年に個人的に設立された。「宮本」氏は，米国での農業研修を終え帰国し，’65 年に玉野市に玉野バードセンターを開店した。イヌや鯉などの繁殖も手がけたが，生き物に無関心な子どもや若者の存在に気づき（「カブトムシが電池で動くと信じていた子ども」や「ニワトリの絵を四つ足で描いた大学生」（宮本，2017）），動物園施設の計画に着手した（’80 年に市に事業計画書を提出）。’89 年には，18 人の従業員とともに渋川動物公園を開園するに至った。ちなみに，「動物公園」という名称は，「宮本」氏の次の思いを反映している。①施設を取り巻く環境の享受（「山の起伏や景観，二千本の果樹をはじめとする植物（宮本，2017）」），②人と動物が共生する場所としての「動物公園」（見て，ふれて，人と動物が同じ目線でなかよくなってもらう」，「園内で飼育するすべての動物がいきいきと過ごせるように配慮」（宮本，2017））。②の点は，興味深いことに，動物展示という博物館的な発想を排している。

「動物のありのままの姿に出会える」という概念の下におよそ 80 種 600 匹（羽）の動物が放し飼いにされており，自由にふれあうことができる（山陽新聞 digital, 2017）。この概念がある意味で仇となり，「アブー」の脱走につながったのである。この動物園は，分類上は私設動物園として位置づけられるが，大企業が営んでいるわけではなく，個人的努力を基にしているという点できわめて興味深い存在である（たとえば，加森観光株式会社によって運営されている姫路セントラルパークの入園料は 3,500 円であるが，渋川動物公園の入園料は 1,000 円である〈ともに大人〉）。

渋川動物公園で飼育されている動物は，ミニホースやヒツジなどで構成され，動物園の定番である肉食獣などは含まれていない。対照的に，三重県度会郡にある私設動物園の大内山動物園はもっと小規模でありながら，ライオンやベンガルトラなどの肉食獣も飼育されており，伝統的な動物園の体裁を維持している。

三重県度会郡大紀町にある大内山動物園は，飼育動物数 70 種 400 体余りを抱えた中規模の動物園である（図

図 3-a　大内山動物園の入り口
（2017 年 8 月 27 日；著者撮影）

図 3-b　大内山動物園の園内
（2017 年 8 月 27 日；著者撮影）

3-a)。私設でありながら，ベンガルトラ，ライオンや，ウマグマなどもおり，先述した池田市五月山動物園などにも引けを取らない施設である。ただし，かなり山間にあり交通の便の点では自家用車を利用するしかない（JR 紀勢本線・大内山駅から徒歩約 30 分；自動車の場合には紀勢自動車道・紀勢大内山 JC 利用）。

この動物園はもともと ’70 年に「脇正雄」夫妻によって少数の動物（10 種類程度）を飼育する「大内山脇動物園」として出発した。しかし経営難に陥り地域のふるさと創生事業への参入も構想されたが，統合されることもなく維持され，園内は荒れ果てていった（「動物はやせほそり，獣舎は異臭を放ち，実にあわれな現状」（三重県観光キャンペーン推進協議会，2015））。「脇正雄」氏が亡くなったことを契機に，「山本清號」氏（名古屋市・総合プラント株式会社・代表取締役）が「大内山動物園」として継承・運営することとなった。

「山本」氏は私財を投入しこの動物園の再建に着手した。’09 年の仮オープンの時からこの動物園で働いている「阿部貴広」氏（現・係長）によれば，尾鷲ヒノキをふんだんに使った新たな獣舎に古い獣舎を変えていく作業が現時点で 9 割方完了しており，今後も園全体を拡大する計画であるとのことである（阿部，2017；ヒアリング／総面積 25,000 m^2，「山本清號」園長による私信）。なお，尾鷲ヒノキを利用した獣舎群は園全体をログハウスでリゾート地風にしているが，このヒノキの利用は，高い耐久性や抗菌性という点からだけでなく，尾鷲地域の林業の活性化にも配慮している（阿部，2017；ヒアリング）。

さらに，この動物園の特徴として多くの保護動物を積極的に受け入れている点を挙げることができる。「山本」氏は，動物愛護精神の啓発活動を行っている「公益財団法人動物環境・福祉協会 Eva」の名誉顧問に就任している（公益財団法人動物環境・福祉協会 Eva, 2017）。この保護動物の受け入れは近隣自治体を媒介としても行われており，この動物園と地域とのつながりも生み出しているのである（阿部，2017；ヒアリング）。

先述したように，この大内山動物園は，動物好きであった人物が山間に設けた施設に由来している。したがって，敷地自体は広いが長細い形状となっている。このためもあって，通常の動物園施設とは異なり，獣舎が通り道の両脇に基本的に並んでおり，これが独特な雰囲気を生み出している（図 3-b）。また家族連れの小さな子どもなどが常に親の視線の範囲にあるという利点も生じている。

図 3-c　大内山動物園で飼育されているライオン（2017 年 8 月 27 日；著者撮影）

ところで，この動物園における動物展示の方法として基本的に「檻」が用いられている。これは，一般の動物園の展示方法からすると古典的といえよう（ちなみに，山間の少し小高い所にヒツジやシカたちのための放牧場が造られている）。もちろん，この「檻」型獣舎は，先述したようなヒノキ造りであることに加え（この獣舎は飼育員によってかなり清潔に保たれている〈著者による現場観察〉），「檻」と来園者との距離が猛獣類の場合でもほぼ 1 m しかなく，来園者に近接感や満足感を生じている。

しかし，ベンガルトラ，ライオンや，ウマグマなどを「檻」の中で飼育することは，近年重要視されている環境エンリッチメントの考えからすると不適切と言わざるをえない（図 3-c）。環境エンリッチメントとは，「動物の種にふさわしい行動と能力を引き出し，動物福祉を向上させるような方法で動物の環境を構築し，改造する」と定義される（石田，2010）。たとえば，旭山動物園における行動展示はこの考えの最先端に位置するであろう。しかしながら，この大内山動物園が，公立でもなく，大企業の傘下にあるわけでもないことを前提にすると，資金面の点から環境エンリッチメント志向に単純に走ることはできないであろう。私設とはいえ，そもそも三重県に唯一存在する動物園施設であることや，保護動物の積極的受け入れを行っていることからも，この大内山動物園は動物園が果たすべきいくつかの役割を確かに満たしていると判断できよう。

Ⅲ．おわりに

本稿では，佐渡友（2015，2016）によるわが国の公立動物園に関する経営分析を出発点とした。戦後の高度成

長の終焉に伴い，多くの公立動物園や地方動物園の経営悪化が起きた。しかしながら，地域との連携方略や動物園の特徴の特化方略などによる再生努力の有効性と可能性が確認できた。また，①教育，②レクリエーション，③自然保護，④研究という動物園の役割（石田，2010）をすべて満たそうとするよりも，地域や経営形態の実状に併せて当該動物園の特色を打ち出すことが重要であると暫定的に結論できた。

これは，土居（2013）が指摘するように，動物園が「社会におけるレクリエーションを主体とする構造の中に組み入れられ」，「本来もっていた生き物＝動物＝自然との関係性」が希薄化し，「都市における施設の意味」を強化してきたことを踏まえると，そもそも 4 つの役割すべてを同等に充足することができるのかという論議の重要性と関連する。さらに，土居は，①「人間に対して自然への共感を呼び起こす場」，および②「地域の核」という動物園がもつ 2 つの大きな意義を挙げており，②は福知山市動物園，五月山動物園や，大内山動物園などの事例と関連している。また，土居（2017）による「その場所に行くことが望ましい」という規範下での行動選択結果としての動物園来園という視点も重要であろう。さらに，佐渡友（2015，2016）が試みた経営分析の観点を踏まえながら，中・小規模動物園の財政的基盤の確認を今後行う必要もあるだろう。

［付記］

福知山市動物園の二本松俊邦園長には，同動物園の歴史的経緯について話を伺うことができた。また，大内山動物園では，同動物園の特徴と展望について阿部貴広係長に親身に説明を頂くとともに，山本清號園長から園の規模に関する情報を得ることができた。記して感謝致します。

Ⅳ．引用文献

東俊之　2013　地域マネジメントのプラットフォームとしての動物園　児玉敏一・佐々木利廣・東俊之・山口良雄（著）『動物園マネジメント－動物園から見えてくる経営学－』学文社　179-197 頁

土居利光　2013　都市環境における動物園及び水族館の意義と役割　観光科学研究（首都大学東京），**6**, 61-76.

土居利光　2017　利用者数からみた日本の動物園・水族館の特性　観光科学研究（首都大学東京），**10**, 39-48.

古性摩里乃・諸井克英　2016　動物園の社会心理学（1）－動物園におけるブランド絆感の構築を目指して－　生活科学（同志社女子大学），**50**, 1-12.

古性摩里乃・諸井克英・天野太郎　2017　地域社会における「姉妹都市」提携の機能と直面する課題（3）－アデレード市と姫路市との「姉妹都市」提携事業として姫路市立動物園に寄贈されたウォンバットの事例－　生活科学（同志社女子大学），**51**, 17-25.

石田　戢　2010『日本の動物園』東京大学出版会

川田敦子　2007『さつきやま　ウォンバット物語』（財）池田市公共施設管理公社

児玉敏一　2013 a　低成長・少子高齢化時代における公立動物園の経営計画　児玉敏一・佐々木利廣・東俊之・山口良雄（著）『動物園マネジメント－動物園から見えてくる経営学－』学文社　13-44 頁

児玉敏一　2013 b　持続可能な動物園に向けて　児玉敏一・佐々木利廣・東俊之・山口良雄（著）『動物園マネジメント－動物園から見えてくる経営学－』学文社　124-141 頁

宮本純男　2017『世界でたったひとつの動物園－渋川動物公園ができるまで－』中国シール印刷

Ranasinghe, T. 2006 *I am Phant the Elephant.: The world's only living paper mill*. 秋沢淳子訳『ぼくのウンチはなんになる？』ミチコーポレーション英治出版

佐渡友陽一　2015　日本の公立動物園経営のパラダイム転換にかかる要因分析　日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要，**19**, 25-32.

佐渡友陽一　2016　日本の動物園水族館の経営方針と成長に関する分析　日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要，**20**, 35-44.

打越綾子　2016『日本の動物政策』ナカニシヤ出版

［インターネット］

朝日新聞 DIGITAL 2017「体長 1 m のゾウガメが脱走「遅いという先入観災い」」*http : //www.asahi.com/articles/ASK833HWQK83PPZB007.html*〈2017 年 8 月 24 日閲覧〉

福知山市　2017　*http : //www.city.fukuchiyama.kyoto.jp/shisei/entries/007199.html*〈2017 年 8 月 6 日閲覧〉

池田市　2017「世帯数・総人口」*http : //www.city.ikeda.osaka.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/80/20170112.pdf*〈2017 年 8 月 8 日閲覧〉

株式会社ミチコーポレーション　2017「ぞうさんペーパーができるまで」*http : //www.zousan-paper.com/story/*〈2017 年 8 月 4 日〉

環境省動植物園等公的機能推進方策のあり方検討会　2014「動植物園等の公的機能推進方策のあり方について　平成 25 年度報告書」*http : //www.env.go.jp/nature/report/h 26-01/main.pdf*〈2017 年 7 月 31 日閲覧〉

公益財団法人動物環境・福祉協会 Eva　2007「人と動物がしあわせに共生できる社会を目指して」*http : //www.eva.or.jp/*〈2018 年 1 月 7 日閲覧〉

京都市　2007「指定管理者制度の運用について（通知）－総務省自治行政局長－」*http : //www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/cmsfiles/contents/0000026/26365/shishin_sanko.pdf*〈2017 年 9 月 21 日閲覧〉

三重県観光キャンペーン推協議会　2015「Story で紡ぐたび 47－るんるん気分　大内山動物園－」*http : //story.kankomie.or.jp/story/ru/*〈2017 年 8 月 29 日閲覧〉

日本テレビ　2017「天才！志村どうぶつ園」*http : //www.ntv.co.jp/zoo/index.html*〈2017 年 8 月 6 日閲覧〉

大阪市建設局　2016「第 2 回天王寺動物園経営形態検討懇談会議事要旨」*http : //www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/cmsfiles/contents/0000375/375448/gijiyousi2.pdf*〈2017 年 7 月 11 日閲覧〉

両丹日日新聞　2010 a「親と分かれたもの同士　赤ちゃんザルとウリボウ仲良し」*http : //www.ryoutan.co.jp/news/2010/07/30/002475.html*〈2017 年 8 月 6 日閲覧〉

両丹日日新聞　2010 b「赤ちゃんザルがウリボウの背中に馬乗り」*http : //www.ryoutan.co.jp/news/2010/08/31/002603.html*〈2017 年 8 月 6 日〉

両丹日日新聞　2013「福知山市動物園のミワとウリ坊今も仲良し　3 歳半，一緒に眠る」*http : //www.ryoutan.co.jp/news/2013/11/22/007222.html*〈2017 年 8 月 6 日閲覧〉

両丹日日新聞　2016「2 匹で「光」「秀」レッサーパンダの赤ちゃん」*http : //www.ryoutan.co.jp/news/2016/10/05/010842.html*〈2017 年 8 月 6 日閲覧〉

産経ニュース　2017 a「動物園の人気者ライオンに飼育員かまれ重傷　長野・小諸」*http : //www.sankei.com/affairs/news/170226/afr1702260006-n1.html*〈2017 年 7 月 31 日閲覧〉

産経ニュース　2017 b「小諸市動物園のライオンかみつき事故　扉閉め忘れた「人為ミス」検証委が報告書」*http : //www.sankei.com/region/news/170423/rgn1704230035-n1.html*〈2017 年 7 月 31 日閲覧〉

産経ニュース　2017 c「懸賞金 50 万円…岡山の「脱走」ゾウガメ 15 日ぶり発見　捜索の親子，15 分で“ゲット”」*http : //www.sankei.com/west/news/170816/wst1708160071-n1.html*〈2017 年 8 月 24 日閲覧〉

山陽新聞 digital　2017「世界に一つだけ　動物園設立の軌跡－玉野・渋川動物公園園長が本出版－」*http : //www.sanyonews.jp/article/550263/1/*〈2017 年 8 月 24 日閲覧〉

周南市徳山動物園 2017 a「きて！みて！さわって！？うんこ展」*http : //www.tokuyamazoo.jp/main/Unkoten.pdf*〈2017 年 8 月 4 日〉

周南市徳山動物園　2017 b「飼育員のブログ「キモい展」開催中！」*http : //tokuyamazoo.cocolog-nifty.com/blog2/2017/06/post-45ef.html*〈2017 年 8 月 4 日閲覧〉

瀧本美織　2014「ママになります☆」*http : //ameblo.jp/takimotomiori/entry-11859898911.html*〈2017 年 8 月 6 日閲覧〉

（2017 年10月20日受理
2017 年11月17日採択）